

●国境を越えた生態系のネットワーク

生態系のネットワークは、国内の地域に限ったことではありません。例えば空を飛ぶことができる鳥類などには、繁殖地と越冬地の間を国際的に移動するものもいます。そのため移動を阻害しないように、中継地や越冬地となる水辺や干潟などの身近な自然環境を守り、ネットワークを保全・復元していくことは、世界の生態系を守ることにもつながります。



オオヒシクイの渡りルート

サシバの渡りルート



レッドデータブックに掲載されているオオヒシクイはカムチャツカ半島などで繁殖し、サハリンなどを經由して日本まで渡って来ると考えられている。かつては関東の平野部まで普通に渡来してきていたといわれる。



オオヒシクイは水田や湖沼が一体となった環境で越冬し、日本では宮城県の黒葉沼などで越冬している。

(写真提供：池内俊雄氏)

●オオヒシクイの渡りのルート

雁の仲間のオオヒシクイは、カムチャツカ半島中西部で繁殖した後サハリンへ渡り、一部は大陸方面へ、そして一部が北海道へ入り石狩川沿いに南下し、苫小牧市外のウトナイ湖、秋田県八郎潟へと達し、さらに南下します。そして宮城県伊豆沼湖沼群で越冬するものと、新潟県から石川県で越冬するものがあります。

●世界とつながる身近な自然

タカ類のサシバは、「渡り」という習性によって、国境を越えた生態系とのつながりをもつ鳥の仲間です。秋田県以南の本州、四国、九州、佐渡などで子育てをし、秋にはフィリピンなどの東南アジアへ向かい、そこで冬を越します。日本でサシバが主に繁殖をする谷戸とその周りの雑木林は、身近な自然のひとつですが、その身近な自然環境を守ることが、地球規模の生態系を保全することにつながります。

また、日本の干潟や湿地は国境を越えて渡りをする多くのシギ・チドリ類の重要な中継地、または越冬地になっています。干潟は熱帯雨林にも比べられるほど多くの生きものが育まれる場所ですが、こうした湿地環境が失われていくと、長距離を旅する渡り鳥は休憩したり栄養を補給することが難しくなります。



サシバの繁殖する谷戸の環境。サシバは平地や低山などに生息するタカ類であり、生態系ピラミッドの最高位の生物であるため、谷戸などに豊かな自然環境が残されていることを示す指標ともいえる。

